ISSN　0912－5973

郷土研究 岐阜 第146号

飛騨美濃合併百五十周年記念展示の開催にあたって

黒田隆志

現在、岐阜県図書館の二階企画展示室において「飛騨美濃合併一五十周年記念展示―地図と図書資料でみる岐阜県の歩み―」（会期：令和八年九月五日～十月二十二日）が開催中である。主催は岐阜県図書館、共催は岐阜県郷土資料研究協議会である。

展示は、二部構成で、第一部は「地図でみる岐阜県の歩み」、第二部は「図書資料でみる岐阜県の歩み」である。

同図書館は、岐阜県の図書館として資料の収集・保存・提供を通じて、県民の生涯学習と個人や地域の課題解決の支援をミッションステートメントに掲げていて、本展示会はそれを具体化したものである。

展示物は、同館が所蔵する郷土に関する資料だが、会場の制約もありごく一部である。よって会場だけで歴史を理解することは難しく、会場で生じた関心や疑問については、可能であればその場（図書館）で調べていただくことを期待している。

本会が、同展示の第二部に関わるのは、本会規約にもあるように「岐阜県図書館の所蔵する郷土関係資料の利用の拡大を図る」ことが会の活動目的の一つとなっていることにある。

展示に加えて会期中に「岐阜県における郷土研究の歩み（内容は、同封のチラシ参照）をリレートーク形式で九月二十六日に開催する。

展示で扱う歴史は日本が近代国家として歩み始めてから今日まで。その近代の始点は明治維新である。それから九年後の明治九（一八七六）年八月二十一日に現在の姿をした岐阜県が誕生した。ここまでの流れは左記のとおりである。

明治四年七月に実施された廃藩置県によって美濃・飛騨には十三の県（笠松・高山・大垣・加納・岩村・郡上・苗木・今尾・高富・野村・名古屋・犬山・岡田）が存在することになった。そして同年十一月には高山県を除いた十二県が、岐阜県として統一され、飛騨三郡からなる高山県は筑摩県に編入されたのである。

五年後の同九年、筑摩県の廃止にともない、飛騨三郡が岐阜県と合併することで、現在の岐阜県となった。

ところで、この百五十年の歴史を近代史・現代史という単語を使って表現するが、その境界はこの百五十年の中ほどにある「先の大戦」（その視点から第二次世界大戦、アジア・太平洋戦争、太平洋戦争、日中戦争、大東亜戦争などの名称があてられている）である。今回の展示では直接扱っていないが、この言葉は政治の世界でよく使われているので、耳にされた方もあるのではないだろうか。この戦争の前を近代、後を現代としているのである。

「先の大戦」以降の八十年、わが国は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を三つの原則とした日本国憲法のもと歩んできた。

では「先の大戦」まではどうだったのか。大日本帝国憲法のもと、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦と、大きな戦争を戦い、国土を拡張し、「先の大戦」へと進んだのである。

このような歴史（先人の営み）の結果として、今の私たちの社会・生活がある。

私たちの目の前で、日本が、世界が大きく動き、しかも何処へ向かおうとしているのか霧の中である。こんな時こそ、歴史を振り返り、今を考え、将来を想うことが必要なのではないか。本展示の観覧がその機会となることを願うものである。

（本会会長）

目　次

飛騨美濃合併百五十周年記念展示の開催にあたって　黒田隆志　1
東京岐阜県人会と大阪岐阜県人会の起源　加藤浩伸　2
岐笠運河計画を巡る町村の動き　黒田隆志　3
西濃地域の松坂踊り（二）　岡田吉孝　10
美濃国山県郡高富町天王町『山口彌重文書』資料　その七　松尾　隆　16
地区情報
（西濃）児玉　剛　22
（美濃）岩井　彩乃　23
（飛騨）茂住　修史　23
郷土関係新刊書目録　23
郷土関係逐次刊行物文献目録　26

郷土研究・岐阜　第一四六号
令和8年9月10日　発行
編集・発行　**岐阜県郷土資料研究協議会**
（会長　黒田隆志）
岐阜市宇佐四―二―一　県図書館内
電　話　〇五八―二七五―五一一一
ＦＡＸ　〇五八―二七五―五一一五
E-mail kyoshike@library.pref.gifu.jp
銀行振込　大垣共立銀行県庁前支店
（普）２８９６６０
郵便振替　００８６０―０―４１２２０
年度会費　普通会員　２８００円
賛助会員　４０００円
（印刷　株式会社廣和）